

One PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

198

2019 July

特集

同志社スポーツの今 —大学スポーツの今後に向けて—

同志社人訪問

関西ラグビーフットボール協会会長

坂田 好弘さんに聞く

COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人

My Purpose 挑戦する人
を動画で CHECK!



2 特集 同志社スポーツの今 —大学スポーツの今後に向けて—



7 Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～

グローバル地域文化学部 水谷 智ゼミ
文化情報学部 河瀬 彰宏ゼミ

9 同志社の研究は今

働き方と科学技術研究センター
センター長 藤本 昌代(社会学部社会学科教授)



11 データでみる同大生の2018年度就職戦線

13 2018年度 大学決算について / 2019年度 大学予算について

15 INFORMATION

本学教員の執筆図書紹介 /
同志社大学「古本募金」 / WEB でCHECK! 課外活動総合 WEB サイト「D-Live」

18 INTERVIEW ～同志社人訪問～

関西ラグビーフットボール協会会長
坂田 好弘さんに聞く



21 My Job, My Life ～私と「仕事」～

岩田 渉さん (2016年 社会学部社会学科卒業)
増田 晴香さん (2016年 文化情報学部卒業)

23 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

阪田 美枝さん (大学院総合政策科学研究科博士課程(前期) 1年次生)



お知らせ

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。2018年度より4月・7月・11月の年3回の発行となりました。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>



特集

同志社スポーツの今

大学スポーツの今後に向けて



Doshisha Sports Now!

建学の精神を礎に誇り高き歴史を刻む
同志社スポーツ。
その現状と今後の大学スポーツの行方を
第一線で活躍する現役体育会学生たちが
多角的な視点から語り合いました。



同志社スポーツの今

大学スポーツの今後に向けて

学業との両立を第一に考えて同志社大学を選んだ

海平 まず、皆さんが競技を始めたきっかけ、同志社大学を選んだ理由を教えてください。

山内 小学校1年生の時の体験がきっかけです。当時、父親の転勤で富山県に住んでおり、そこでアイスホッケーに出会いました。やってみると非常に面白

うみ ひら なごみ

モデレーター **海平 和氏**

KBS 京都アナウンサー・KBS「京スポ」キャスター

2010年 同志社大学経済学部卒業。同年 KBS 京都(株式会社京都放送)入社。報道局アナウンサー部で「京スポ」、「news フェイス」などを担当。数多くのスポーツの現場を取材・レポートしている。

くて、夢中になりました。高校ではシーズンに10タイトルあるのですが、インターハイ以外はすべてのタイトルを取りました。「強くなりたい!」という一心で、このスポーツが本当に楽しいから頑張れたのだと思います。大学の強豪校は関東の方が多いのですが、同志社大学なら勉強もスポーツも両立できると考えて選びました。私が高校から初めて同志社大学へ進学し、その後、後輩も続いて入学してくれたので同志社とのパイプ役になれたことも良かったと思っています。

海平 山内君が拓いた道がしっかりとつながっているんですね。

平澤 ラグビーを始めたのは高校に入学してからです。小学生の頃から野球をしていたのですが、何か新しいことがたくなって、当初は軽音楽部に入部するつもりでした。ところが兄が親しくしてもらっていたラグビー部の顧問の方から電話が入り、「弱小チームだけど、やってみないか」と誘われたのです。当時、

部員は僅か4人でした。以来、昼休みなどに「ラグビー部に入ってください!」と頭を下げて新入部員の勧誘もしました(笑)。でも、最後は県でベスト8まで勝ち進むことができました。

海平 その頃から体格は良かったのですか?

平澤 身長は高かったですけどヒョロヒョロでした。体重は当時60kgくらい。今は103kgあります。大学進学は学業が大前提でした。1年間の浪人生活を経て、同志社大学に合格することができて本当に嬉しかったです。「同志社に入学するのならラグビーを続けてほしい」と顧問の先生に背中を押され入部しました。

山本 自宅の近くにスイミングスクールがあり、3歳の時から通うようになりました。オープンウォータースイミングは高校2年の時、競泳の強化の一環として試合に出たのがきっかけです。そこで代表選手を抜いて優勝しました。

海平 初めて出た大会で?!周りからも



やまうち とうま
山内 斗真 さん

商学部4年次生
体育会アイスホッケー部所属
アイスクロス日本代表

やまもと みあ
山本 美杏 さん

スポーツ健康科学部1年次生
体育会水泳部所属
オープンウォータースイミング日本代表

ひらざわ きりゅう
平澤 輝龍 さん

神学部4年次生
体育会ラグビー部所属
ラグビージュニア・ジャパン選出

ウスフバヤル
デミデジャムツ さん

神学部1年次生
体育会相撲部所属
モンゴルから日本の高校に
留学・大学に進学



© 同志社スポーツアトム編集部

大注目ですね。オープンウォータースイミングと競泳とは違うものなのではないでしょうか？

山本 はい。海で行う長距離水泳競技で、競泳とは異なり、選手同士が身体をぶつけ合うこともあります。格闘技的な要素もあり、波が高ければ3時間前後も競うことになるので、駆け引きも重要な競技です。同志社大学には小学校の友達が同志社香里中学に進学した時から憧れを抱いていました。その憧れを追うように、私は同志社香里高校に入学し、憧れの同志社大学に入学できました。

デミデジャムツ 相撲が大好きで、父親が横綱 白鵬関と知り合いということもあり、3年前に日本の高校の相撲部に入りました。日本語の勉強を始めたのも、その時からです。高校を卒業したら大相撲に行くつもりでしたが、大学に行くことにしました。大学進学には他の大学からも誘われましたが、勉学も相撲も両立できると判断して同志社大学に進学しました。



海平 皆さん、スポーツと学業の両立を重視して同志社大学を選ばれたのですよね。その中で、日本代表に選ばれた感想を聞かせてください。

平澤 代表に選ばれたのは今年の3月です。それまで特に考えていなかったのですが、「突然、話が来た!」という感じでした。当初は凄いプレッシャーを受け、一度は断りかけたのですが、コーチに強く説得されて「行く!」と決めました。日本代表だけあり、意識が高く、多くのことを吸収できました。

海平 本当にドラマのようなストーリーですね。山内君はアイスクロスの日本代表ということですが、何がきっかけでアイスクロスを知ったのでしょうか？

山内 アイスクロスは、アイスホッケーとダウンヒルスキー、スノーボードクロスの要素を取り入れた過激なスピード競技で最大時速は80km前後も出ます。アグレッシブなレースで「誰がチャンピオンになるのか?」という見ていて楽しい、興奮できるスポーツです。このアイスクロスにチャレンジしようと思ったのは、「レッドブル・クラッシュドアイス」がアジアで初めて、横浜で開催されることがきっかけでした。昨年7月に知り、選考会まで約4カ月間しかなかったのですが、傷だらけになりながら特訓を続けた結果、日本代表に選出されました。

海平 1年経ってないのですよね!自信はありましたか？

山内 ありました(笑)

山本 私は今年4月開催の第9回 OWS アジア選手権で日本代表のメンバーとして出場することができて本当に嬉しい。小学生の頃からの夢を実現することができました。



スポーツと学業の両立、 例えばインターネット授業など 先進のシステムを徹底活用したい

海平 皆さん、学業との両立に日々努力されていることに感心しました。その中で、皆さんが工夫していること、また逆に授業や部活の環境のことなど、こんなことがあったらいいなあという要望はありますか？

山内 試合や遠征などと重ならない時は学業に打ち込んでいます。アイスホッケーは練習場を借りている関係で練習は深夜になります。睡眠の時間を削ったり、徹夜のままに講義に出席することもあります。まさに「寝る間を惜しんで…」という感じです。要望という点では、全寮制というところですかね。アイスホッケーはじめ団体競技には「チーム力」が重要な

ので、寝食共にすることはチームの結束が高まる大きな要素です。

海平 栄養管理にもチーム全体で取り組めますよね。平澤君は寮生活ですか？

平澤 僕は寮に入っていないですが、確かに全寮制にすることですごく良くなる部分があると思います。でも、自宅生や下宿生が部にいることで色々な取り組み方、時間の使い方を知ることができるので、そこは色んな考え方があって同志社らしいと思います。あと、僕の場合、海外遠征はほぼ休みの間にあったのですが、授業期間中に海外遠征があった人は欠席が認められないことがあったので、そこは少し考慮してあげてほしいかなと思います。

海平 山本さんとデミデジャムツ君はまだ1年生ですが、どうですか？

山本 合宿や遠征で講義に出席できない時が少なからずあります。その場合は友人に欠席した授業の内容を確認したり、予習ができる科目はテキストを事前に読んだりしています。友達は本当に大切です。

デミデジャムツ 相撲部では勉強を終えてから練習を行うようにしています。講義が終了した後、直ぐに集まれば、特に問題はありません。週末は朝から皆揃って稽古をします。これは両立以前の問題ですが、日本語は特に漢字が大変です。まだ、学び始めて3年目なので分からない漢字が数多くあります。いつも友人に意味を聞いたりして助けてもらっています。

海平 遠征の時にはオンデマンドのインターネット授業があればいいと思うのですが、皆さんどうでしょう？

デミデジャムツ 私の学部はすでにオンデマンドのインターネット授業が実施されている科目があり、活用しています。例えば、通学の電車の中でも視聴できるなど時間を上手に使えるので非常に効率的です。

山内 えっ、そんな授業あるんですね！遠征先や部活が終了した後、視聴できれば絶対に便利です。全科目とは言わないですけど、そのような先進的なシステムはすべての学部で積極的に取り入れてほしいですね。

平澤 どうしても練習時間を確保するために登録する授業時間帯を考えないといけないので、僕もすべての授業とは言いませんが、必要に応じてこのようなシステムがあれば時間に縛られず授業を受けることができます。

山本 「遠征などで勉強が遅れる」のが問題なので、スマートフォンなどで視聴できれば大助かりです。理解できない部分を繰り返し確かめるのにも役立ちます。

同志社スポーツの今、 これからの大学スポーツの行方は

海平 個々の実情を語っていただきましたが、全体的にはどうですか。

山内 確かに勉強をおろそかにしている体育会学生はいます。「昔の体育会学生は勉強しなかった」ということも聞きますが、私は絶対に両立させたいと思っていますし、体育会学生すべてがそうであれば、問題はないと思います。

海平 私は大学時代に「もっと一生懸命に勉強しておけばよかった」ということがあります。だから、体育会の学生がひとつのことに打ち込んでることって凄

いなと思います。

山内 僕たちスポーツ推薦で入学したグループにとっては、逆に一般入試で入学した人たちの学力には衝撃的でした。彼らと何が違うのか？って真面目に問題として考えていました。

平澤 確かにアスリートの集中力は凄いなと思います。これは勉強にも通じます。ラグビー部は「文武両道」を厳しく指導されており、4年間を見据えた履修のミーティングなどもあります。昔と異なり、学業とスポーツの両立のための環境は整っているのではないのでしょうか。

山本 必修を落としたり、留年したりした実例も耳にしています。私は教員免許も取得したいので、さらに多くの単位を取る必要があります。やはり不安はあります。**デミデジャムツ** 皆、しっかりがんばっていますね。現在、相撲部1年次生4人が寮の同じ部屋に住んでいるのですが、毎日午前2時頃までレポートを書いたりしています。

海平 そんな遅い時間まで？4人揃ってレポートを書いているのですか？

デミデジャムツ いや、今のところ私は課題が少ないので、「寝るから、静かにして！」と頼んでいます…(笑)。

「文武両道」や「自主自立」を 重視する校風は素晴らしい

海平 現在、実感している同志社大学ならではの良さを聞かせてください。

平澤 同志社大学は「文武両道」、「学業を頑張っている人が競技にも果敢に挑んでいる」というのが魅力です。「自主自立」を重視する校風が自身には合っていて、選手が主体的に考えて練習に取り組んでいるという姿勢は大きな魅力です。

山内 両立できない学生は社会に出て



も確かな成果を残せないような気がします。選手が主体性を持って競技に取り組んでいるという点も同感です。また、監督からは「新しい領域に積極的に挑戦しなさい！」と背中を押してもらっています。アイスクロス日本代表になれたのも、そのお蔭ですし、色んなことに全力で取り組むことが大切だと思いました。これも同志社ならではの良さだと思っています。**山本** 遠征などに行くと実感するのですが、同志社大学のアスリートは勉強も大切にしています。その姿が私自身の励みにもなっています。

デミデジャムツ 高校時代は大会で負けると叱られていました。でも、大学では「こういうところを注意すれば、次は勝てるのではないか」といった前向きなアドバイスを監督やコーチ、先輩から受けることができます。だから、落ち込んだ気分が吹き飛び、やる気が出てきます。日々の練習も自分で考えながらやることのできる、「やらされている」という受け身の感じがなく、それが強化につながっていると思います。

海平 スポーツは勝ち負けの世界ですけど、今日皆さんの話を聞いて、学生だからこそ勝敗以上に大切なことがあるのだと感じました。同志社スポーツの現状と学生スポーツの未来に向けた貴重な意見を数多く聞くことができました。ありがとうございました。皆さんの素晴らしい活躍を期待しています。



特集座談会に登場した4人の学生の「熱い声」を紹介します!



平澤 輝龍 さん

神学部4年次生
体育会ラグビー部所属

激しいコンタクトスポーツであることがラグビーの最大の魅力です。15人の選手が個々の力と技を出し切り、それが一つに結束した時に最高のパワーが生まれます。神学部を選じたのは、世界の人々の根幹を形成している宗教を通じて現代の諸問題を理解し、コミュニケーションを深めたいと考えたからです。卒業後はインフラ分野などに進み、ラグビーで培った精神や能力を海外の事業などで活かしたいと考えています。



© 同志社スポーツアトム編集部



山内 斗真 さん

商学部4年次生
体育会アイスホッケー部所属

アイスホッケーは最大時速80km前後で勝敗を競うスポーツであり、クラッシュも多々ありますが、そのスリル感に魅了されています。卒業後に向けて経済活動を多面的に学び、ノウハウを身につけたいと考えて商学部を選択しました。実践的な学習が必ず役立つと思っています。広告やテレビ、ITなどの分野に進み、マイナーな競技にもスポットを当てたいと思っています。



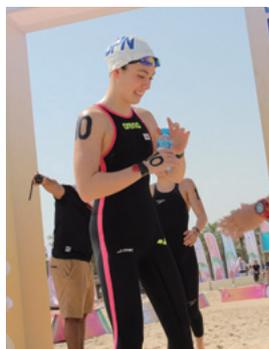
© 同志社スポーツアトム編集部



山本 美杏 さん

スポーツ健康科学部1年次生
体育会水泳部所属

一般的に試合直前の練習は非常に紧迫感がありますが、オープンウォータースイミングは音楽なども流されており、リラックスできます。格闘技の要素も含む競技との両面が共に大好きです。スポーツ健康科学部を選んだのは、アスリートとして最も身近な学部であり、学んだことを自身の鍛錬などにも直ぐに活かせると思ったからです。また、1年次生なので将来のことは未定ですが、教員免許は取得したいと考えています。



ウスフバヤル デミデジャムツ さん

神学部1年次生
体育会相撲部所属

勝利の瞬間に最大の醍醐味を感じています。以前はバスケットボールをしたこともありますが、一対一でぶつかり合う相撲が私にはいちばん向いていると実感しています。神学部は高校の先生に強く勧められ、迷うことなく選択しました。宗教には以前から関心がありました。モンゴルは仏教ですが、これ以外の宗教も学び、人々の心に与える影響を知りたかったからです。勇猛果敢な力士になり、大活躍するのが望みです。



© 同志社スポーツアトム編集部

的確な歴史認識を通じて 現代の諸問題を見極める目を養う 個々のテーマを互いに討議し 各自の卒業論文として結実させる



水 谷教授の専門領域はイギリス帝国史・植民地研究。かつてイギリスは「大英帝国」として植民地主義を展開し、世界各地に領土を拡張した。これが多民族・多宗教国家イギリスを形成した起因である。水谷研究室では植民地との関係においてイギリスの歴史を再考し、現代ヨーロッパが内包する宗教対立や民族差別などの諸問題を考察してきた。「現在はグローバルな観点から植民地主義を捉え直す研究をしています。一つの帝国のみに着目するのではなく、異なる帝国の支配者／被支配者が互いにどのような関係にあったのか横断的に考える事で、これまでの帝国史で見えていなかった部分を探っています」。

水 谷ゼミでは的確な歴史認識を通じて、現代の世界で起きている諸問題の背景と核心を見極める目を養うことを目指している。「ゼミ生に大切にしてほしいのは個々の原体験などから生じた純粋な疑問です。3年次後半からは、その疑問を互いに共有し、討議を重ねることによって、学問的なテーマに昇華させ、各自の卒業論文として結実させます」。取材当日の本ゼミでは実話に基づく映画『East Is East』（1999年・イギリス・監督ダミアン・オドネル）が取り上げられた。1970年代初頭のマンチェスター近郊の小さな街を舞台に、イギリスにおけるムスリム移民の文化的葛藤を、世代間の考え方の違いと衝突に焦点を当て描いている。コメディタッチだが、人種差別・排外主義などのシリアスなテーマが背景にある家族ドラマである。ゼミ生は数名ずつのグループに分かれ、事前に観たこの映画で各自が特に注視したシーンなど

を互いに述べながら討議を開始。水谷教授が提示した問いかけは「当時のイギリス人の移民に対する姿勢が端的に分かるのはどの部分か」、「移民の世代間の葛藤はどのように描かれているか」、「この映画は植民地主義的過去と移民の関係について何を示唆していると思うか」。20数分が経過した時点で水谷教授が各グループを回り、的確な助言や情報を与え、さらに議論を促す。ゼミ後半では映画のポイントとなる各場面を再生しながら詳細な解説を実施。これによって各自が見過していた注目点が次々に提示され、学びが深まっていく。



ゼミに所属している4年次生は11人（男性4人・女性7人）、3年次生も11人（男性2人・女性9人）である。3年次生の小杉航太さんは中学時代にイギリスで2年間暮らした経験がある。その後、EU離脱の是非で国民の意見が割れ、内在する諸問題も顕著化し、かつての寛容なイメージが大きく崩れたという。これを契機に現代のイギリスが抱える多くの課題を深く学んでみたいと考えようになり、本学部を選択し、水谷ゼミに所属した。「水谷先生のゼミは、意見を発しやすく、討議も刺激的です。また、水谷先生は現在の諸問題と、過去の歴史を細やかにリンクさせながら解

説されるので分かりやすい」。今年9月からイギリスのリーズ大学への留学を予定しており、イギリス国内の民族対立を内側から探究したいと考えている。以前から世界史が好きで、現在は特にイギリスの帝国主義に興味を抱いていると語るのは3年次生の太田海斗さん。「帝国主義は悪い面がクローズアップされがちですが、異論はあるとしても、例えばインドに議会制民主主義を根づかせ、補助公用語としての英語を広めることによってコミュニケーションを促し、鉄道技術などももたらしました。帝国主義を様々な観点から研究したいと思っています」。水谷ゼミは少人数によるグループ討議が中心なので活発な議論ができ、自身の学びに大きく役立っているという。3年次生の酒井理紗さんは中学、高校時代のカナダやイギリスへの留学で世界に目を向けるようになり、EU離脱や国際的なテロの頻発で国際問題に強い関心を持つようになった。「なぜ、人は他者を受け入れられないのか」という問題を考察するために本学部を選んだという。「水谷先生のゼミを選択したのはイギリスのイスラモフォビアを研究したかったからです。人気のゼミなので所属できて本当に良かったと思っています」。将来はイギリスの大学院で学び、国際協力の分野の仕事に携わる事を視野に入れている。





文化現象の計量分析で得られる 新たな発見を実感してほしい 文理の枠を超えて卓越した能力を 的確に結べるエキスパートを



河瀬彰宏助教の専門分野は文化現象の計量分析、デジタル人文学。具体的には音楽学、言語学、認知科学、人類学、宗教学、民俗学、政治学など分野横断的な観点から各学問分野の方法論を組み合わせ、統計科学による音楽の研究に取り組んでいる。2011年から5年間、国立国語研究所で古典文学の解析を行い、2014年から現在に至るまで、京都大学東南アジア地域研究研究所でチームを組織し、世界各国・各地域の行動様式も探究している。「まだ、音楽民族学には深く踏み込めていない分野がいくつも存在しています。その中で、現在は『各地域・各時代においてどのような音楽的特徴があるのか』ということを探究しています」。



元々、音楽や数学が好きだった河瀬助教が具体的に現在の研究分野に関心を抱くようになったきっかけは、中学時代に神田神保町で手にした日本伝統音楽の理論書だった。この著書で日本民謡のように人々が口ずさむところから始まった音楽にも規則性や法則性があることを知り、これを科学的に考察したいと思い立ったのである。将来的には音楽だけでなく文化現象の背後に秘められた性質や影響などの関係性を探り、それらの研究を結実させたいと考えている。「文化現象を計量分析することによってきわめて興味深い新たな発見が得られます。これをゼミ生に実感してほしいのです。思考力を高めるためにアクティブ・ラーニングを重視し、積極的に実践しています。また、教育的な観点からは、直面する諸

課題を多角的な視点から科学的に探究できる人材の養成を目指しています。次代に向けて必要なのは、文理の枠を超えて卓越した様々な能力を的確に結ぶことのできる新たなエキスパートです。世界が多様化する中で分野横断型の思考の重要性は、さらに高まっていくと確信しています」。取材当日、取り上げられたのはピエール・ブルデュー。統計学的手法の導入で社会学の概念構成や理論形成の研究に転換をもたらし、「無回答」を研究対象として捉え直し、文化・性向と階級の関係を分析する先駆的研究などで名高いフランスの社会学者である。その生涯や功績の概要を紹介した後、ブルデューの分析方法を現代の日本社会に適用する場合についてゼミ生に複数の質問が投げかけられた。これに対して4人1チームで討議し、各チームの代表が集約した意見を発表。続けてハビトゥス（生活諸条件から生み出される性向）や文化資本（出自、学歴、教養）などブルデュー理論、著書『ディスタンクシオン』を解説した後、公開データを使った数量化理論の演習などが行われた。



現在、河瀬ゼミには4年次生16人（男性9人・女性7人）、3年次生19人（男性10人・女性9人）が所属している。「文理の枠を超えて知見を広め、体系的な考え方や分析手法なども深く学べる実りの多いゼミです。討議でも積極的に発言することでスキルアップに役

立っています」と、4年次生の早見直孝さんはゼミの実感を語る。3年次の演習で卒業論文のテーマに想定していた音楽が河瀬助教の研究対象であることを知ったのが河瀬ゼミを選択する契機になった。志望はシステムエンジニア。社会インフラを支えるような研究開発の仕事に就きたいという。2年次生の時に受講した河瀬助教の「文化計量学入門」が河瀬ゼミを選ぶきっかけになったと振り返るのは、4年次生の榎引聡太郎さん。「様々な文化現象を計量分析する方法論を学ぶ中で学問の相互関連性を知り、特に文理双方に精通しておられる河瀬先生のゼミを希望しました。実践的な演習は社会に出てもそのまま役立つと感じています」。AI（人工知能）に象徴されるこれからの社会では新たな価値の創出が非常に重要であり、これに即応しているのが文化情報学だという。その強みを最大限に活かせるコンサルティングやシンクタンクの業界を目指している。3年次生の剣持若菜さんは様々な学問分野に関心があり、新たな視点や考え方を学びたいと考えて文化情報学部に進学。現在、ゼミでは文化領域の幅広い知識やデータ解析のスキルの習得に全力を注いでいる。インプットで基盤を固めた後、さらにアウトプットの能力も強化したいという。現在はまだ情報収集の段階だが、エンターテインメントに関わる仕事に関心を抱いている。



「働くことと科学技術に関連する諸現象」を探究 就業の場に科学技術が導入されることによる諸現象と、 科学技術を生み出す人々の指向や働き方について考える

現代社会における働き方を科学技術との関係から捉える時、就業環境に導入される科学技術が私たちの働き方に及ぼす影響について考える必要がある。また、日本は激しい国際競争の中にあり、経済的合理性の論理に迫られて多くの研究開発がなされている。科学技術の研究開発現場には成果物による社会的な影響について想像力を巡らす時間が十分に与えられているだろうか。働き方と科学技術研究センターでは、科学技術が働き方に及ぼす影響、成果を生み出す専門職（研究者・技術者等）自身の就業環境、彼らの科学的指向と個人や組織における規範や制度、組織構造や社会構造との関係、雇用を生み出す長寿企業（老舗）への科学技術的支援の歴史といった多角的な視点から調査・研究を行っている。本研究センターは、新たな中核的研究拠点として、これらの視点から研究成果を発信し、この活動を通じて国際研究交流を推進することを目的としている。

働き方と科学技術 研究センター

センター長 **藤本 昌代**

【社会学部社会学科教授】

2001年 同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程修了（博士（社会学））。機械制御系ソフトのシステム設計に約10年間従事した時にエンジニアに関心を抱いたのが、現在の研究に打ち込む契機となる。大学時代はテニス選手として活躍（全日本、国体出場）し、当時は日本テニス協会公認指導員の資格を有していた。オフタイムはスイミング、哲学の道の早朝散歩などでリフレッシュを図っている。



働くことと科学技術の関わりを複合的に捉える

働き方と科学技術研究センターでは、現代社会で見落とされがちな「働く場と科学技術」に関わる諸現象を探究している。人々が科学技術に対し、過剰に親和性を高めることは社会の構造や雇用制度、個人や組織の規範にも大きな影響を及ぼし、成果を追求することに埋没する研究開発者には予測できない危険性が潜んでいると藤本昌代センター長は指摘する。本研究センターの1つめのテーマは「働くことへの科学技術の関わり」について、新たな科学技術を職場に導入した時に生じる働き方、職場の人間関係、規範、制度などの変化などを研究することである。また職場だけでなく、インターネットが普及しても在宅勤務が普及しなかったことについて、ジェンダー・バイアス、セキュリティ、プライベートな時間への労働時間の侵食、対面コミュニケーションの減少による情報の限定性等々、多様な問題が潜んでいる。他にも地域間格差がなくなると謳った通信系の研究テーマが多く採択されているにもかかわらず、東京一極集中が続いている。私たちは技術では解決できない問題を考えていく必要がある。

科学的な指向が生み出す課題

2つめの研究テーマは「科学的な態度・指向が生み出す社会的課題」である。「科学技術系の研究開発は社会の発展に役立つと思われるがちです。現在よりも未来が良くなるという直線的な進化を信じる発想です。しかし、本当はそんなのでしょうか。その中には想定外の弊害を及ぼす危険性を孕んでいるものがあることを私たちは過去に多くの例を見てきています」。経済的合理性に追い立てられて熟考されずに進められていく企業活動や政策について問題点を議論する場が必要であり、大学はそのような場を提供することができる。

労働者として研究開発に従事する専門職への視点

3つめの研究テーマは「科学技術を生み出す側の人々の意識と労働環境」である。科学技術に関する研究開発では激しい国際競争が行われる中で、それに携わる人々は成果を挙げることに追われ続けている。過重労働の問題はあらゆる分野で発生しており、専門職の就業環境も深刻である。一般的な労働者への過重労働に注目が集まりがちであるが、専門職や中高年層の管理職への重圧は大きく、深夜まで及ぶ長時間労働が恒常化している。切迫した状況に専門職や管理職が長時間置かれていることが様々な社会問題を生み出す要因になっている。これは組織での意思決定における構造上の問題や企業の社会的責任にも直結する問題である。

長寿企業（老舗）への科学技術支援の歴史

また、京都は伝統文化と革新によって長年栄えてきた歴史があり、老舗は伝統文化の継承者としてだけでなく、長寿企業として雇用創出の役割を担ってきた。京都で100年以上続く中小企業は、それぞれの時代の最先端の技術によって生き延びてきた歴史をもつ所が多い。研究所を持たない中小企業と公的研究機関の関係は長い歴史が存在する（現在、京都市の協力を得て、学生と共に研究を行っている）。

クリティカルな視点醸成と問題提起

「私たちは、いかに科学技術を役立たせるかという科学技術を妄信する指向、また反対に科学技術を一方的に否定する態度だけでなく、科学技術とどのように関わることが望ましいのかというクリティカルな態度を持つことが重要だと思います。これからの時代を生きる上で、そのような態度をもって科学技術と共存することが求められると思います。クリティカルな視点の醸成と問題提起に役立てられる研究成果を発信していければと考えています」。本研究センターでは、これらの多岐にわたるテーマに経験豊富な研究員や若手研究員が、定量的な分析によるマクロな研究と、定性的な分析によるミクロな研究に取り組んでいる。その研究成果を国内外に発信することによって社会に貢献する中核的研究拠点の確立を目指している。

積極的に国際研究交流を推進

国際研究交流も本研究センターの重要な設置目的である。現在、社会科学の分野で世界的に著名な研究者を輩出しているフランス国立社会科学高等研究院 (EHESS)、南フランスの産業集積地にあり、労働関係の研究で名高いフランス国立労働経済学・労働社会学研究所 (LEST)、キャリアなどの調査・研究で巨大なデータベースを構築しているフランス国立資格調査研究センター (CEREQ) との共同研究を実施中である。さらに、欧州の近隣諸国の研究機関への道筋も拓くべく、計画中である。「このような国際研究交流は、若手の研究員が第一線で活躍し始めた時に貴重な人脈として役立つはず。研究促進と共に後進の育成も本研究センターの役割であり、できる限りのサポートをしたいと思っています」。2023年3月(設置期間)に向けて際立つ研究成果が期待されている。



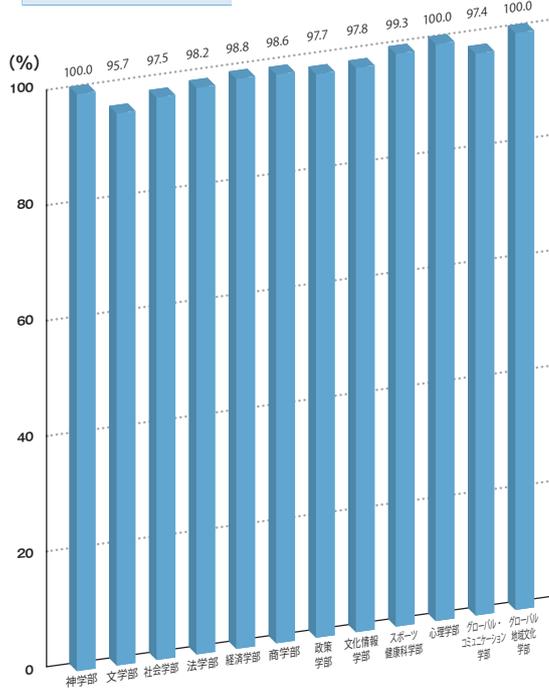
データでみる 同大生の 2018年度就職戦線

2018年度の就職状況は、大卒求人倍率の上昇を反映して、前年度に引き続き売り市場となり、就職率は98.6%と高い数字になりました。その一方で、社会のニーズが多様化する中、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果を上げることができる潜在能力を持った自立した人材を求めています。このような変化の中で、皆さん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、**インターンシップ** (注1) など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になります。

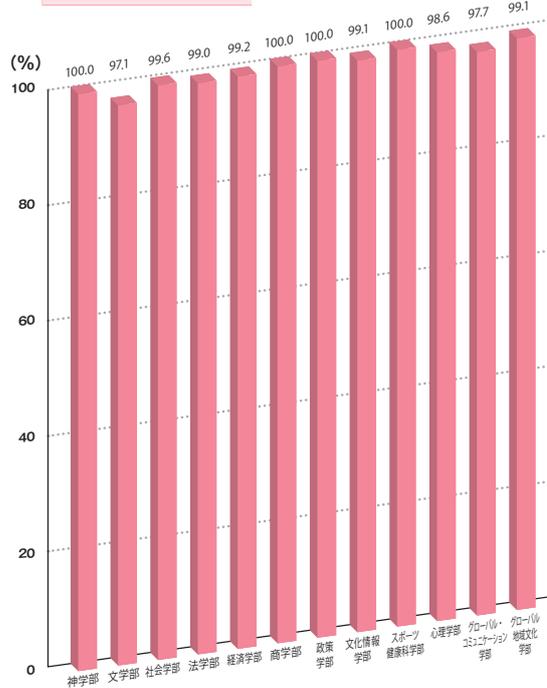
■ 就職率

$$\text{就職率} = \frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$$

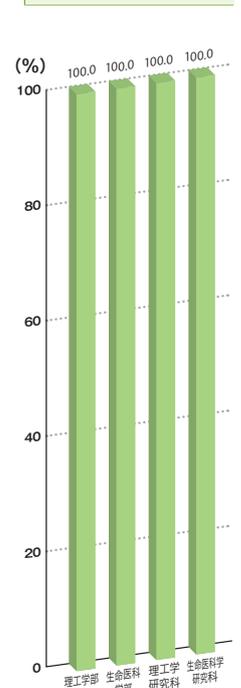
文科系学部／男子



文科系学部／女子



理工系学部・研究科



■ 主な就職先と人数

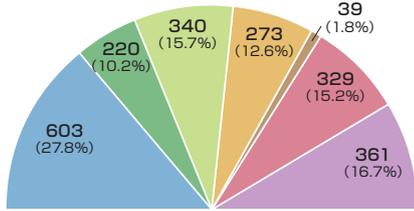
会社名と人数

文科系		理工系	
国家公務員(一般職)	46	三井住友海上火災保険株式会社	18
みずほフィナンシャルグループ	35	京都府	17
株式会社三菱UFJ銀行	34	日本航空株式会社	17
日本生命保険相互会社	32	パナソニック株式会社	17
株式会社京都銀行	30	みずほ証券株式会社	17
東京海上日動火災保険株式会社	30	明治安田生命保険相互会社	17
りそなグループ	29	ローム株式会社	17
株式会社滋賀銀行	28	富士通株式会社	16
京都市	27	三菱電機株式会社	16
株式会社三井住友銀行	25	パーソルキャリア株式会社	15
住友生命保険相互会社	23	株式会社ニトリ	15
株式会社大和証券グループ本社	23	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	15
三井住友信託銀行株式会社	22	株式会社村田製作所	15
野村證券株式会社	22	日本郵便株式会社	15
京セラ株式会社	20	三菱UFJ信託銀行株式会社	13
関西みらいフィナンシャルグループ	20	アクセンチュア株式会社	12
全日本空輸株式会社	20	日本年金機構	12
楽天株式会社	20	株式会社NTTDコム	11
京都中央信用金庫	19	株式会社島津製作所	11
第一生命保険株式会社	19	株式会社ネオキャリア	11
西日本旅客鉄道株式会社	19	三井不動産リアルティ株式会社	11
株式会社キーエンス	18	USEN-NEXT HOLDINGS	11
SMBC日興証券株式会社	18		
		パナソニック株式会社	27
		ダイキン工業株式会社	19
		株式会社村田製作所	14
		株式会社デンソー	13
		三菱電機株式会社	11
		株式会社日立製作所	10
		株式会社メイテック	10
		京セラ株式会社	8
		株式会社野村総合研究所	8
		富士通株式会社	8
		株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	7
		関西電力株式会社	7
		オリンパス株式会社	6
		株式会社島津製作所	6
		積水化学工業株式会社	6
		タカラベルモント株式会社	6
		株式会社豊田自動織機	6
		株式会社SUBARU	6
		三菱自動車工業株式会社	6
		株式会社NTTDコム	5
		川崎重工業株式会社	5
		株式会社クボタ	5
		株式会社小松製作所	5
		SCSK株式会社	5
		TIS株式会社	5
		株式会社LIXIL	5
		トヨタ自動車株式会社	5
		西日本電信電話株式会社	5
		本田技研工業株式会社	5
		村田機械株式会社	5
		ヤフー株式会社	5
		NECソリューションイノベータ株式会社	4
		株式会社エクセディ	4
		カルソニックカンセイ株式会社	4
		株式会社ぎんてん	4
		株式会社ケイ・オプティコム	4
		シャープ株式会社	4
		東芝メモリ株式会社	4
		ダイハツ工業株式会社	4
		日東電工株式会社	4
		日本アイ・ピー・エム株式会社	4
		西日本旅客鉄道株式会社	4
		ローム株式会社	4

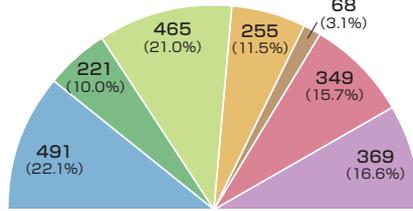
※企業団体名は2019年4月1日現在の名称を記載しています

業種別内定状況

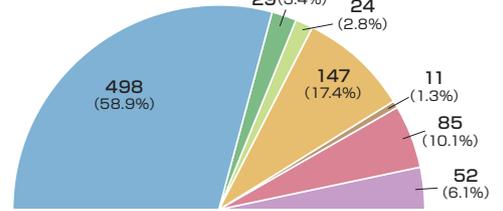
【文科学部・研究科 男子】(人)



【文科学部・研究科 女子】(人)

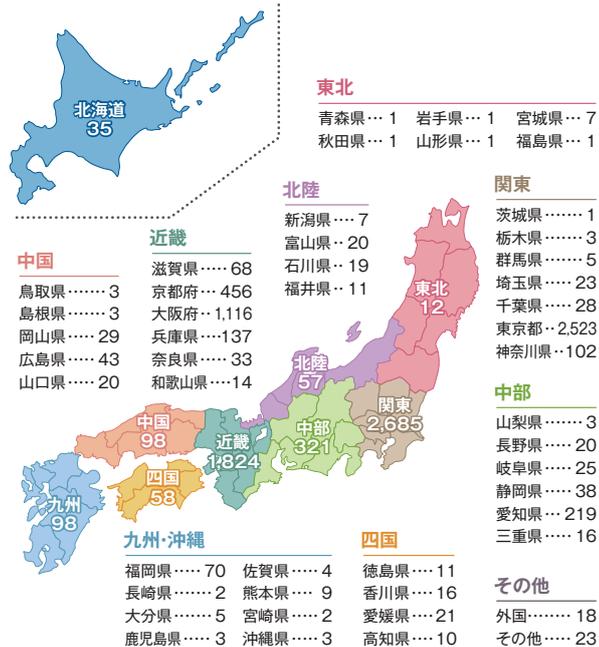


【理工学部・研究科】(人)



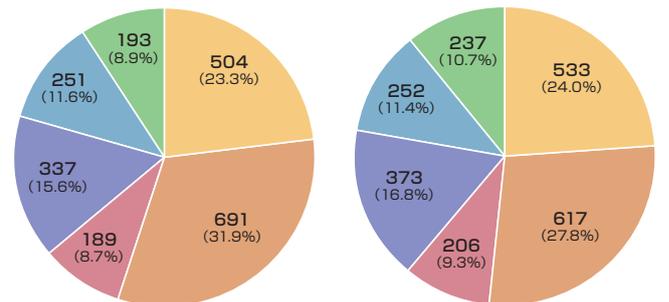
■ メーカー ■ 流通 ■ 金融 ■ マスコミ・情報通信 ■ 教育・学習支援 ■ サービス ■ 公共・その他

地区別内定状況(人)

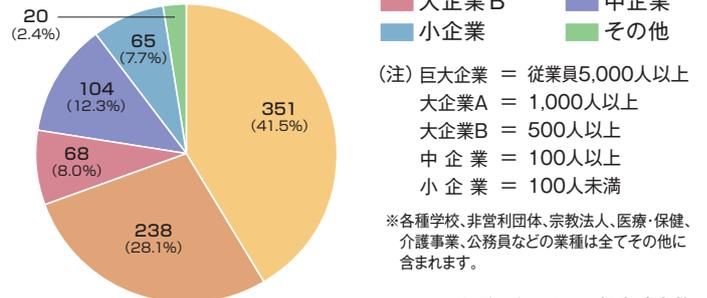


従業員規模別内定状況

【文科学部・研究科 男子】(人) 【文科学部・研究科 女子】(人)



【理工学部・研究科】(人)



■ 巨大企業 ■ 大企業A ■ 大企業B ■ 中企業 ■ 小企業 ■ その他

(注) 巨大企業 = 従業員5,000人以上
大企業A = 1,000人以上
大企業B = 500人以上
中企業 = 100人以上
小企業 = 100人未満

※各種学校、非営利団体、宗教法人、医療・保健、介護事業、公務員などの業種は全てその他に含まれます。

※データは2018年度確定数

(注1)インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を開講しています。学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理念との統合を図り、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型（公募制）のインターンシップもあり、キャリア支援システム「e-career」(<https://e-career.doshisha.ac.jp/>)でその一部を紹介していますので参考にしてください。

参加者の感想



このインターンシップの経験は非常に有意義なものでした。今振り返ってみると、参加してよかったという思いに満ち溢れています。実際に会社でインターンシップを行うことで、自分と社会人との違いが明確にわかり、自分がまだ学生としての甘えがあると感じることができました。また、この実習の中で自分にいかに知識がなく、相手に伝える力が欠如しているかわかったことも大きな成果です。

自分がどのような職に就くことになったとしても、大切なのはその環境の中で自分が何をすべきか何ができるのか考え、実行に移していくことだと改めて気づくことができました。企業分析なども大事ですが、それよりも今の時期に自分を見つめ直し成長できる機会をインターンシップ研修を通じて得ることができたので、これからの就職活動を含め学生生活に生かしていきたいと強く思うようになりました。

初めて社会人の方と交流させていただき、同じ立場に立つことで、臆することなく自らの意見を発信し、自分の疑問や発見をとことん追求する積極性を身に付けることができました。また、それがいかに社会人にとって重要か学ぶことができました。この積極性は、就職活動や社会に出た際の、これからより多くの様々な人と関わり、未知の世界に飛び込む場面において、私の大きな武器になると思います。

海外インターンシッププログラムに参加し、様々な出会いを通して、海外で活躍する方々のチャレンジ精神に満ちた経験談や信念を聞くことができました。目的や理由、経緯は違っても、自分の人生にとって悔いのないような決断をされてきた方々と触れ合えたということは、これまで逃げて安全な選択ばかりしてきた自分にとってはものすごく刺激的で考えさせられるものになりました。

今回の体験は絶対に無駄ではないと言い切れます。様々な体験ができたこともそうですが、何よりいろいろな方と出会い、会話できたことが貴重な経験となりました。普段話さないような方と話すことで、その人の考え方に触れ、自分の価値観を広げることができ、とてもよかったです。

2018年度大学決算は、2019年5月9日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月25日開催の法人理事会で承認されました。

2018年度は、施設設備整備について、今出川校地においては、新町学生会館の空調設備更新工事を実施しました。また、京田辺校地においては、真誠館の空調設備設置工事や日糧館のトイレ改修工事を実施し、学生生活のアメニティ向上を図りました。さらに、今出川校地において、日本人学生と外国人学生の混住・共修環境を整えた教育推進に係る新学生寮（教育寮）の建設工事および早急に対応する必要がある各建物の耐震化対策の一環としての致遠館の建設工事を2019年度以降に行うための準備を進めました。

研究面では、平成30年度「私立大学研究ブランディング事業（タイプB）」に選定されました。私立大学研究ブランディング事業は、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学等を支援する文部科学省の事業です。2018年度は157校の申請校から、学識経験者等で構成する「私立大学研究ブランディング事業委員会」において、事業の実施体制と事業内容を総合的に審査し、20校（タイプA：11件、タイプB：9件）が選定されました。本学が選定を受けた取り組みは「宇宙生体医学工学を利用した健康寿命の延伸を目指す統合的研究基盤と国際的連携拠点の形成」で、2020年度までの3年間、私立大学等経常費補助金（特別補助）による財政的支援を受ける予定です。

教学面では、「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」を開始しました。「同志社大学ビジョン2025」を本学が着実に進め、今後も社会で活躍する自治自立の人物を輩出し続けるためには、教育を提供する各学部および研究科の教育研究のさらなる充実が不可欠であり、学部・研究科の改革と新たな挑戦を大学全体として支援する教学マネジメントが求められています。「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」では、学部および研究科が提案する質の高い教育プログラムから得られた様々な教育効果を改めて分析・共有し、本学の教育研究力の向上に役立て、次代の人物を養成するプログラムを新たに構築することを目的としています。

また、全学共通教養教育科目の一つとして「クリエイティブ・ジャパン科目」を開設しました。伝統、文化、芸術を産業振興、新産業の創出、

まちづくり、地域コミュニティの再生など、社会の様々な分野で活用し、幅広い分野に波及させていくことで、日本社会のクリエイティビティを高めるための方法を思考し、文化による日本のブランディングについて考察します。この科目群は、文化庁の文化・芸術政策の方針を意識しつつ、本学の創造経済研究センターや京都と茶文化研究センターの研究成果を取り込んだ内容となっています。この科目群の多くのクラスでは、ゲストスピーカーによる講演や、フィールドワーク、実習等を通して、伝統文化や芸術の担い手等の実践知を身に付けることを目的としています。

さらに、同志社大学テュービンゲンEUキャンパスの現地事務室に職員の派遣を開始し、2019年度以降、教員派遣および学生派遣などを通じてEUキャンパスの具現化するための準備を進めました。

学生支援面では、毎年世界各国の大学生が集い持続可能な社会環境の発展について議論を交わし、世界に向けて改善・解決の提案を行う「学生による学生のための」国際会議である「世界学生環境サミット」やローム記念館プロジェクトルームのPC環境・ラーニングスペースの整備、多目的（ハロー）ホール音響設備更新を実施するほか、地震、台風、大雨といった自然災害に対する緊急措置としての学費等の減免措置を実施しました。

そのほか、「同志社大学ビジョン2025」を推進すべく、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金」を継続して実施しました。この募金は、ビジョンに掲げる6つの事業推進をはじめ、奨学事業、課外活動支援、施設設備整備等幅広い事業を対象としており、本学に関わる全てのステークホルダーに本学の教育・研究活動のさらなる充実・発展に向けての支援をお願いするもので、2025年末まで継続的に実施する予定です。

2018年度は、従来から継続している国際化の推進と4年ごとに実施する大規模な情報系システムのリプレースを含め、各方面で必要となる財政的支援を行いました。収入面では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金の増収等により、予算よりも増収となる一方、支出面においては、教育研究に係る各事業での経常的経費の執行残などにより、予算と比較して減少となりました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は330億円で、事業活動収入に占める割合は約80%と大きな比重を占めています。

手数料は19億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金、教育研究施設等整備資金寄付金、研究助成への奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金を受入れました。

補助金は27億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助19億円、特別補助6億円を受入れています。その他の国庫補助金では、研究装置および研究設備の採択を受け、さらに大学院教育の抜本的改革を支援する博士課程教育リーディングプログラムに係る補助金などを受入れました。

受取利息・配当金は3億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金です。

付随事業・収益事業収入は9億円で、企業からの共同研究費・受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は12億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入や施設設備利用料収入が主なものです。

繰出金は5億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

当期固定資産除却額は13億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

第2号基本金取崩額は、1億円で、研究装置取得に係る取崩額です。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

特定支出準備金取崩額は2億円で、用途が特定された準備金の取崩額などです。

基本金取崩額は4億円で、固定資産取得額を上回る除却分の取崩額を計上するものです。

収入の部合計は**432億円**となり、学生生徒等納付金、手数料、寄付金などの増収により予算に対して8億円の増加となりました。

支出の部

人件費は209億円で、事業活動収入に対して約51%となりました。

教育研究経費は157億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は18億円で、大学の維持管理に要した経費です。

その他の事業活動支出は2億円で、固定資産除却に係る減価償却未償却額が主なものです。

施設関係支出は4億円で、今出川・京田辺両校地建物の壁面改修、空調設備の設置および更新、昇降機の更新工事などによる支出です。

設備関係支出は8億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

当期固定資産受贈額は1億円で、現物寄付に相当する固定資産の取得額です。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

基本金組入額は12億円で、将来取得する固定資産のための第2号基本金および恒常的に保持すべき資金としての第4号基本金への組入額です。

特定支出準備金繰入額は21億円で、用途特定寄付金、研究費および大規模建設事業などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は**433億円**で、予算に対して1億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度収支差額は1億円**の支出超過となり、手数料収入や付随事業・収益事業収入の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して9億円改善しました。なお、累積収支差額としては**328億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すこととなります。

■2018年度 収支計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	32,894,290	33,038,446	△ 144,156
手数料	1,732,200	1,896,308	△ 164,108
寄付金	440,680	548,230	△ 107,550
補助金	2,848,530	2,704,844	143,686
受取利息・配当金	249,890	266,314	△ 16,424
資産売却差額	0	0	0
付随事業・収益事業収入	797,030	920,163	△ 123,133
雑収入	1,110,210	1,161,185	△ 50,975
分担金	122,730	122,730	0
繰出金	547,620	543,061	4,559
(事業活動収入合計)	(40,743,180)	(41,201,281)	(△ 458,101)
当期固定資産除却額	1,527,130	1,287,014	240,116
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	0	62,123	△ 62,123
第2号基本金取崩額	60,000	60,000	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(1,587,130)	(1,409,137)	(177,993)
特定支出準備金取崩額	133,930	223,549	△ 89,619
基本金取崩額	0	403,107	△ 403,107
[収入の部合計]	[42,464,240]	[43,237,074]	[△ 772,834]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	20,915,590	20,886,660	28,930
教育研究経費	16,487,300	15,678,639	808,661
消耗品費他	12,434,380	11,627,003	807,377
減価償却費	4,052,920	4,051,636	1,284
管理経費	1,693,220	1,841,619	△ 148,399
消耗品費他	1,508,760	1,657,004	△ 148,244
減価償却費	184,460	184,615	△ 155
借入金等利息	640	639	1
資産処分差額	6,830	56,190	△ 49,360
徴収不能額等	29,180	32,342	△ 3,162
予備費	125,000	0	125,000
繰入金	20,350	65,166	20,350
(事業活動支出合計)	(39,278,110)	(38,561,255)	(716,855)
施設関係支出	361,890	363,300	△ 1,410
設備関係支出	1,180,950	813,692	367,258
当期固定資産受贈額	0	67,291	△ 67,291
借入金等返済支出	38,870	38,870	0
前期末未払金	125,990	125,984	6
第2号基本金組入額	1,200,000	1,200,000	0
第3号基本金組入額	0	0	0
第4号基本金組入額	22,800	22,800	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(2,930,500)	(2,631,937)	(298,563)
特定支出準備金繰入額	1,234,880	2,128,699	△ 893,819
[支出の部合計]	[43,443,490]	[43,321,891]	[121,599]

用語解説

収支計算書

当該会計年度における収入および支出の内容ならびに均衡の状態をより明らかにするため、事業活動収支計算書をもとに基本金組入額計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが収支計算書です。

基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度収支差額)	(△ 979,250)	(△ 84,817)	(—)
一般支出準備金繰入額	0	0	—
一般支出準備金取崩額	0	0	—
[繰入取崩後当年度収支差額]	[△ 979,250]	[△ 84,817]	[—]
[前年度繰越収支差額]	[△ 32,732,340]	[△ 32,732,339]	[—]
[翌年度繰越収支差額]	[△ 33,711,590]	[△ 32,817,156]	[—]

2019年度 大学予算について

2019年度大学予算は、3月7日開催の大学予算委員会および大学評議会、3月30日開催の法人評議会、理事会で承認、決定されました。主な事業は以下のとおりです。

教育研究の充実
ALL DOSHISHA 教育推進プログラム実施
新島塾実施
グローバルリソース・マネジメント(GRM)事業
赤ちゃん学術センターの共同利用・共同研究拠点化
文化庁との共同研究事業
教務システムハードウェア・ミドルウェア更新

学生生活支援の充実
ローム記念館プロジェクト活動環境整備
寒梅軒の耐震対応及び内外装改修工事

企画広報・管理運営
統合データベースOS・ミドルウェア更新
ペーパーレス会議システム導入
安否確認システム導入

建設事業
新学生寮建設工事
致遠館改築工事
心理臨床センター改修工事
京田辺キャンパストイレ改修工事
京田辺キャンパステニスコート改修工事

■2019年度 収支予算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			
科目	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金	33,189	32,894	295
手数料	1,860	1,732	128
寄付金	463	441	22
補助金	2,703	2,849	△ 146
受取利息・配当金	195	250	△ 55
その他の収入	2,191	2,577	△ 386
(事業活動収入合計)	(40,601)	(40,743)	(△ 142)
固定資産除却額等	2,262	1,527	735
第2号基本金取崩額等	60	60	0
特定支出準備金取崩額	175	134	41
基本金取崩額	143	0	143
[収入の部合計]	[43,241]	[42,464]	[777]

支出の部			
科目	予算	前年度予算	増減
人件費	21,343	20,916	427
教育研究経費	15,224	16,487	△ 1,263
管理経費	1,648	1,693	△ 45
その他の支出	705	182	523
(事業活動支出合計)	(38,920)	(39,278)	(△ 358)
施設・設備関係支出等	2,323	1,707	616
第2号基本金組入額	1,300	1,200	100
第3号基本金組入額	0	0	0
第4号基本金組入額	35	23	12
特定支出準備金繰入額	611	1,235	△ 624
[支出の部合計]	[43,189]	[43,443]	[△ 254]

収支差額の部			
科目	予算	前年度予算	増減
当年度収支差額	52	△ 979	—
前年度繰越収支差額	△ 33,712	△ 32,733	—
翌年度繰越収支差額	△ 33,660	△ 33,712	—



本学教員の執筆図書紹介

絶対役立つ社会心理学

及川昌典 他 著 ミネルヴァ書房 2,500円

朝鮮半島 危機から対話へ

太田修 他 著 岩波書店 1,900円

現代の信託法

佐久間毅 他 著 弘文堂 4,900円

戦後史のなかの「国家神道」

北康宏 他 著 山川出版社 4,000円

輪切りの江戸文化史

大山和哉 他 著 勉誠出版 3,200円

栄花物語 歴史からの奪還

廣田收 他 著 森話社 6,200円

法多元主義

浅野有紀 著 弘文堂 3,600円

ブリッジブック刑法の考え方 第3版

川崎友巳 他 著 信山社 2,200円

新書アフリカ史 改訂新版

峯陽一 他 著 講談社 1,800円

生涯スポーツ実践論 改訂4版

二宮浩彰 他 著 市村出版 2,800円

骨粗鬆症診療松川真美 石井好二郎 他 著
医薬ジャーナル社 10,000円**サルコペニアがいろいろ**

石井好二郎 他 著 ライフサイエンス出版 1,800円

**アスリートのための
筋力トレーニングバイブル**石井好二郎 渡邊裕也 他 著
ナツメ社 1,600円**価値創発(EVP)時代の
人的資源管理**

中村艶子 他 編著 ミネルヴァ書房 2,800円

日本都市史・建築史事典北康宏 鋤柄俊夫 小林丈広 他 著
丸善出版 20,000円**初期農耕活動と近畿の弥生社会**

若林邦彦 他 著 雄山閣 12,000円

スポーツ産業論

庄子博人 他 著 晃洋書房 1,600円

消費者視点の小売イノベーション

高橋広行 著 有斐閣 3,400円

**マクロ金融経済学の転換と
証券市場**

藤原秀夫 著 晃洋書房 3,800円

テキスト国際会計基準 新訂版

櫻井貴憲 他 著 白桃書房 3,300円

近代日本のメディア議員

河崎吉紀 他 編著 創元社 4,500円

**お金のために働く必要が
なくなったら、何をしますか？**

山森亮 他 著 光文社 840円

日高義博先生古稀祝賀論文集 下巻

奥村正雄 他 著 成文堂 15,000円

ドイツ会計論稲見亨 監訳 佐藤誠二 稲見亨 他 訳
森山書店 3,200円**はじめての東南アジア政治**

鈴木絢女 他 著 有斐閣 2,200円

国際開発学事典小山田英治 峯陽一 他 著
丸善出版 20,000円**大学と社会をつなぐ
ライティング教育**

脇田里子 他 著 くろしお出版 2,700円

最適投資戦略

津田博史 監修 朝倉書店 3,400円

比較で照らすギヤスケル文学

玉井史絵 他 編 大阪教育図書 4,000円

**希少疾患用医薬品の
適応拡大と事業性評価**

富田健司 他 著 技術情報協会 80,000円

電波伝搬

岩井誠人 他 著 朝倉書店 2,300円

実証の国際法学坂元茂樹 他 編 新井京 他 編集協力
信山社 12,000円**金融商品取引法コンメンタール 1
定義・開示制度 第2版**

伊藤靖史 他 著 商事法務 13,000円

「異」なる関西

富山一郎 他 著 田畑書店 2,800円

「通貨」の正体

浜矩子 著 集英社 820円

なるほど!心理学面接法

石川信一 他 著 北大路書房 2,400円

クルド人を知るための55章

森山央朗 他 著 明石書店 2,000円

**スポーツ法への
ファーストステップ**

川井圭司 他 著 法律文化社 2,700円

ポイントレクチャー刑事訴訟法

洲見光男 他 著 有斐閣 4,200円

憲法適合的解釈の比較研究

松本哲治 他 著 有斐閣 6,000円

**幻想と怪奇の英文学Ⅲ
転覆の文学編**下楠昌哉 他 編 下楠昌哉 訳
春風社 3,700円**サイレント・マジョリティとは誰か**

響田竜蔵 他 著 ナカニシヤ出版 2,300円

サービス社会のマネジメント

関智宏 他 著 同文館出版 2,600円

**50年目の「大学解体」
20年後の大学再生**佐藤郁哉 編 佐藤郁哉 他 著
京都大学学術出版会 3,800円**障害者権利条約の実施**

立木茂雄 他 著 信山社 6,800円

刺激応答性高分子ハンドブック古賀智之 東信行 他 著
エヌ・ディー・エス 60,000円**犯罪捜査のための
テキストマイニング**

金明哲 監修 共立出版 3,200円

統計科学百科事典宿久洋 他 編 宿久洋 他 訳
丸善出版 250,000円**早歌の継承と伝流**

植木朝子 他 著 三弥井書店 7,600円

**中国人日本語学習者の学習動機は
どのように形成されるのか**

中井好男 著 ココ出版 3,600円

ハーモニー探究の歴史

大愛崇晴 他 著 音楽之友社 2,500円

**レキシコン研究の
新たなアプローチ**

影山太郎 他 編 くろしお出版 3,700円

21世紀民法学の挑戦 上巻

深谷格 他 著 信山社 19,200円

アベノミクスの成否

佐竹光彦 他 編著
北坂真一 川口章 三好博昭 他 著
勁草書房 3,000円

繋がりの詩学

白川恵子 他 著 彩流社 4,200円

社会思想史事典

岡野八代 他 著 丸善出版 20,000円

大統領とハリウッド

村田晃嗣 著 中央公論新社 860円

ディケンズとギッシング

玉井史絵 他 著 大阪教育図書 3,400円

センサフュージョン技術の

開発と応用事例

橋本雅文 他 著 技術情報協会 80,000円

フレイルとロコモの基本戦略

石井好二郎 他 著 先端医学社 1,800円

信託法をひもとく

佐久間毅 著 商事法務 3,600円

書評誌に見る批判哲学

田端信廣 著 晃洋書房 6,200円

条解 国家賠償法

横田光平 他 著 弘文堂 12,000円

イスラムが効く!

内藤正典 他 著 ミシマ社 1,600円

井上正仁先生古稀祝賀論文集

古江頼隆 他 著 有斐閣 19,000円

社会保障の国際動向と日本の課題

埋橋孝文 他 編著
放送大学教育振興会 2,800円

生命分子と細胞の科学 改訂版

石浦章一 他 著 放送大学教育振興会 3,100円

続・争点倒産実務の諸問題

中西正 他 編著 青林書院 5,300円

詩画制作論の系譜

伊達立晶 著 三元社 7,400円

『三玉挑事抄』注釈

岩坪健 著 和泉書院 15,000円

社会福祉学習双書

2019 第1巻 社会福祉概論I

埋橋孝文 他 編著
全国社会福祉協議会 2,400円

社会福祉学習双書

2019 第8巻 地域福祉論

上野谷加代子 他 編著 永田祐 他 著
全国社会福祉協議会 2,400円

Friendship across the seas

阿川尚之 著
出版文化産業振興財団 3,100円

Heritage culture and business, Kyoto Style

村山裕三 著
出版文化産業振興財団 3,900円

グローバル化の世界史

向正樹 他 著 ミネルヴァ書房 5,000円

ヨーロッパ人権裁判所の判例 II

林真美 他 著 信山社 9,800円

判例講義 民事訴訟法

川嶋四郎 中西正 他 著 弘文堂 3,700円

保険法 第4版

山下友信 他 著 有斐閣 2,100円

新編同志社の思想家たち 下

望月詩史 他 著 晃洋書房 2,700円

新版 よくわかる地域福祉

上野谷加代子 永田祐 他 編著
野村裕美 他 著
ミネルヴァ書房 2,400円

商法 I 総則・商行為 第6版

山下友信 他 著 有斐閣 2,100円

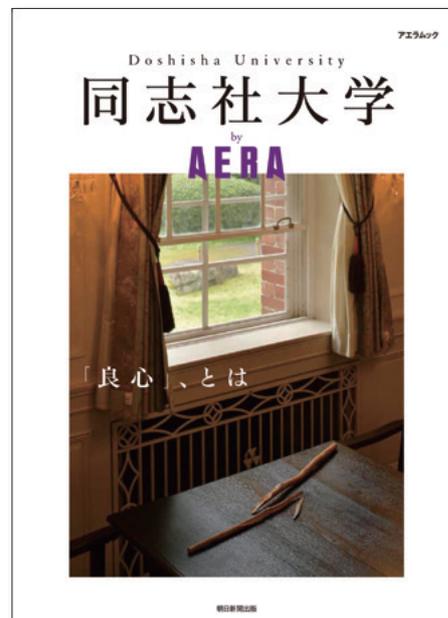
分子アーキテクニクス

彌田智一 他 著 化学同人 4,200円

**「良心」、とは何か
「同志社大学 by AERA」が発売**

同志社大学設立者である新島襄は「キリスト教主義」を掲げ、「一国の良心」たる人物の育成にその生涯を捧げた。「同志社大学 by AERA」では、新島が学んだ地、アメリカ・ボストンへの取材のほか、作家の保阪正康氏や佐藤優氏をはじめとするOB、OGの声を集め、新島が考えた「良心」を浮き彫りにする。また、松岡敬学長とフリーアナウンサー・宇垣美里氏の対談など「同志社の現在とこれから」も併せて紹介する。

「同志社大学 by AERA」／7月26日(金)発売／940円(税込)／朝日新聞出版発行





同志社大学「古本募金」

同志社大学古本募金にご協力ください!

2018年度実績(2018/4~2019/3)が **838,986円**となりました。
 ※制度開始(2018/1)からの寄付額累計は**1,000,688円**です!!
 多くの皆さまからご支援をいただいたことに厚く御礼申し上げます。

【同志社大学古本募金とは】

皆さまからご寄付いただいた書籍等が、これからの社会を担う同志社大学生の奨学金になります。

1 本・CD・DVD・ゲームを梱包

合計5冊(5点)から
送料無料

書籍等を段ボール箱に梱包してください。

2 古本の集荷・仕分け・査定

株式会社バリューブックスで査定を行い、買取金額が同志社大学に寄付されます。

3 同志社大学古本募金へ

買取金額の寄付

集荷から約10日で書籍寄付受領書・御礼状を送付します。

お申込方法

下記①・②のいずれでもお申込みできます。

① WEBで申込み

同志社大学古本募金
(<https://www.furuhon-bokin.jp/doshisha/>)
よりお申込みください。



② 電話で申込み

- (1)左記WEBサイトから申込書をプリントアウトしてご記入いただき、書籍等と一緒に段ボール箱へ詰めてください。
※段ボール箱が複数になる場合でも、申込書は1枚で結構です。
- (2)株式会社バリューブックス
0120-826-292へお電話ください。

【お願い】

■ ISBNコードがついている本をお送りください。

(右図参照)
ISBNコードのない本は
買取できません。



■ 以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

ISBNコードのない本、百科事典、コンビニコミック、
個人出版の本、マンガ雑誌、一般雑誌

● 寄付の詳細に関するお問い合わせ

同志社大学 学生生活課 (ji-kosei@mail.doshisha.ac.jp)
TEL: 075-251-3280 (月~金 9:00~11:30、12:30~17:00)

WEBでCHECK! 課外活動総合WEBサイト「D-Live」

「D-Live」では、学生団体の活動やイベントの最新情報をご紹介します。
ぜひアクセスして日程をご確認の上、応援やイベントへご参加ください。

今すぐ
アクセス!

同志社 dlive 検索
<http://www.d-live.info/>



DOSHISHA SPORTS

www.d-live.info/sports/

体育会をはじめとした公認団体・登録団体の
クラブ紹介や試合の日程をご覧いただけます。



DOSHISHA CULTURE

www.d-live.info/culture/

文化系公認団体・登録団体のクラブ紹介や
活動の予定をご覧いただけます。

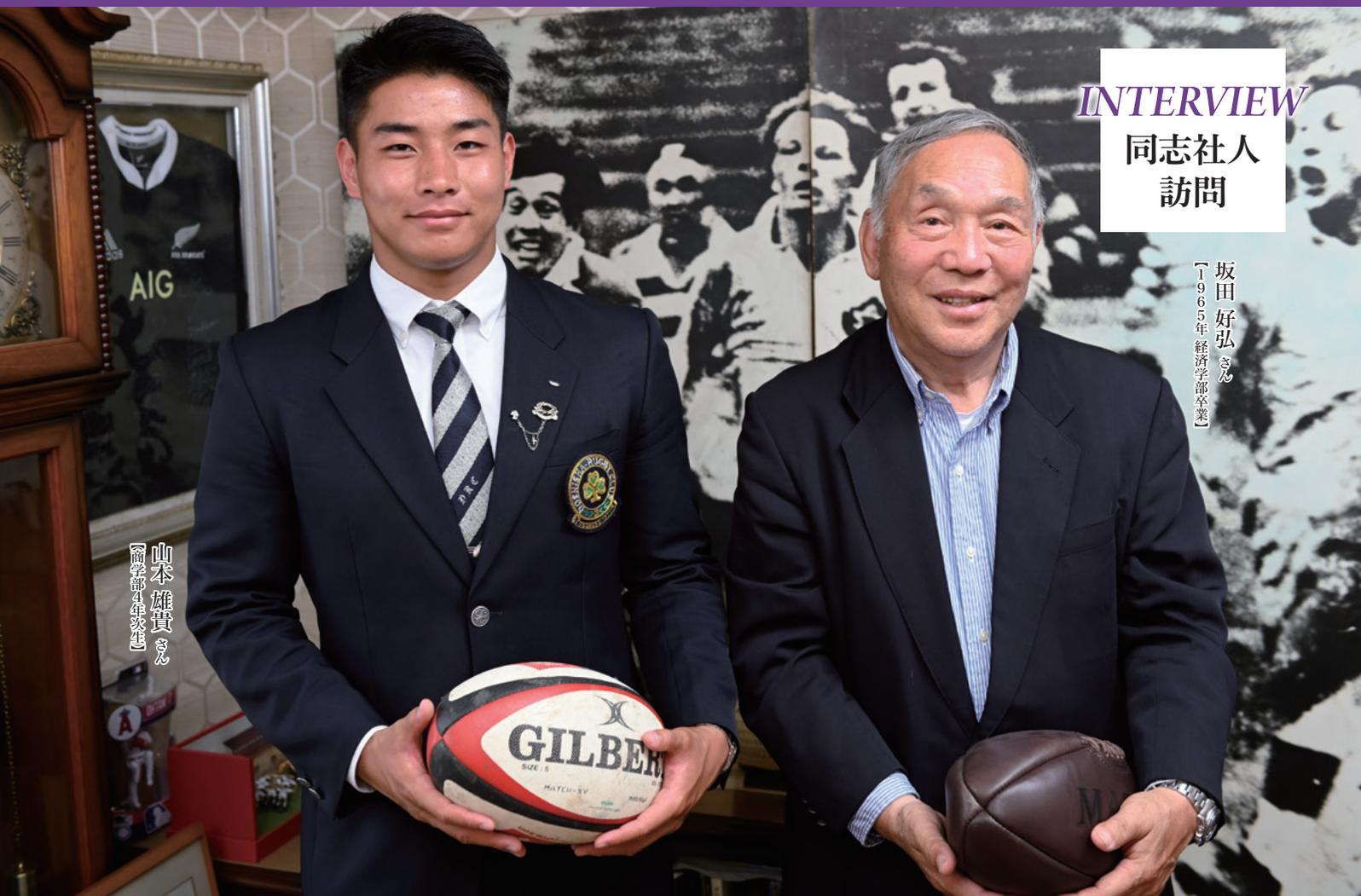


同志社大学公式 Facebook
<https://www.facebook.com/doshisha.university/>



同志社大学公式 twitter
https://twitter.com/DoshishaUniv_PR/



山本 雄貴さん
ラグビー部4年次生

関西ラグビーフットボール協会会長

坂田好弘さんに聞く

ニュージーランド遠征での4トライなど驚異的な活躍で「空飛ぶウイング」と称賛され日本人として初めてIRB（国際ラグビーボード）※ラグビー殿堂入りも果たした世界に誇る伝説のウイング・坂田好弘さんにインタビューしました。

入部1週間後の初試合で 大学チームを相手に初トライ

山本 ラグビーを始めたきっかけは何でしょうか？

坂田 ラグビーというスポーツを目の当たりにしたのは、京都府立洛北高校の合格発表の日でした。自分の受験番号があるのを確かめた後、ふとグラウンドを見ると、はつらつと駆け巡る選手たちの姿が目飛び込んできたのです。「こんな競技があるのか!」と強い衝撃を受け、その足でラグビー部の部室を訪ねて入部を希望しました。これがラグビーとの出会いです。中学時代に熱中していたのは柔道です。京都府

の大会では決勝戦まで進み、中学生で黒帯も取っていました。あの日の出会いがなければ、高校でも柔道に打ち込み、異なる人生を歩んでいたかもしれません。運命に導かれたような気がします。入部直後に新入生全員で短距離走を競い、私は、50mが6秒フラット。ポジションは走力の求められるウイングに決定しました。入部1週間後にいきなり試合に出ることになりました。まだルールも知らないのに監督からは「ボールを持ったら全力で走れ!」とだけ言われました(笑) その指示通りに必死でグラウンドを駆け抜け、初トライをあげました。その時のシーンは今も鮮明に覚えていますよ。

山本 私も同じウイングのポジションなのでとても関心があるのですが、「イン・アンド・アウト」という技術はいつごろ身に付けたのでしょうか。

坂田 同志社大学入学後の岡仁詩監督の叱咤の言葉がきっかけでしたね。1年生の夏合宿でタックルに来た相手をハンドオフ(手で突き飛ばす)して独走トライを決めた時、「いま、逃げたやろ。ウイングはまっすぐ走れ!」と怒鳴られたのです。その日から「どうすれば、まっすぐに走れるのか」を熟考し、ステップを駆使して相手のバランスを崩して直進する「イン・アンド・アウト」の技術に磨きをかけました。マスターできたなという確信を得たのは3年後、

※2014年より「IRB」は「ワールドラグビー」に改称されました。



最高の名誉、すべてに感謝 2012年にIRBラグビー殿堂入り

今回の同志社人

坂田 好弘 さん 【1965年 経済学部卒業】

さかた・よしひろ 大阪府出身。大学時代に2度全国制覇、社会人(近鉄)で4度日本選手権優勝。オールブラックス・ジュニア戦で4トライをあげ、ニュージーランド留学でカンタベリー州代表、ニュージーランド学生選抜などに選出される。大阪体育大学(ラグビー部監督、教授)を経て関西ラグビーフットボール協会会長に就任。

これが私にとって強力な武器になりました。当時の大学ラグビー界は関東では、早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学、関西では同志社大学の力が飛びぬけていて、この4大学が覇権を競っていました。「イン・アンド・アウト」を武器に大学1年生と3年生の時に日本選手権(1年時は前身の「NHK杯争奪ラグビー大会」)に出場し、社会人チームの近畿日本鉄道(以下、近鉄)に勝って2度日本一になりました。

ニュージーランドへ単身留学 「年間最優秀5選手」に輝く

山本 ニュージーランド遠征でオールブラックス・ジュニア相手に4トライ、すごいですね!

坂田 1968年に日本代表チームのメンバーとしてニュージーランドに遠征し、オールブラックス・ジュニア(23

歳以下の同国代表)と対戦し私は4トライをあげ、試合も21対19で勝ちました。予想を覆す、歴史的な勝利でしたね。選手個々の体格差は歴然で、フォワード勝負では勝機を見出すことはできない。そこで、当時の大西鐵之祐監督はスクラムを組んだ瞬間にパスを出すという戦法を徹底しました。この作戦が功を奏したのです。確かその試合での3つ目のトライをあげた時だったかな。一瞬、観客席は静まり返ったのです。その後、自分のポジションに戻った時、スタジアムが揺れるようなスタンディングオベーションが起きました。本当にびっくりしましたよ。

山本 単身でニュージーランドへ留学されていますが、どのような思いがあったのでしょうか。

坂田 自分のラグビーを本場で試してみたかった、その思いだけです。た

だ、私の立場は近鉄の社員ですから、勝手な行動は許されません。しかも、半世紀も昔の話です。今とは異なり中々理解が得られず、諦めかけたのですが、日本のオフシーズンに「無給」で行くということで許可が出ました。ニュージーランドではカンタベリー大学クラブに所属し、トライ王(シーズン18トライ)を獲得。そこからカンタベリー州代表、ニュージーランド学生選抜、ニュージーランド・バーバリアンズでプレー、5カ月間で通算30トライをとりました。この間の実績が評価されたのか、ニュージーランドの年間最優秀5選手にも選出され、留学して本当に貴重な経験を得られました。

山本 現役を引退した時はどんな気持ちでしたか。

坂田 近鉄に入社したのは1965年です。ラグビー部には10年所属しました。合宿所は花園ラグビー場のメインスタンドの下にあり、夏は全員がここで寝泊まりします。朝練、そして夕刻まで他の社員と同様に仕事をし、その後、さらに数時間の練習という毎日でした。肉体も精神も極限状態の毎日でした。私は1975年に現役を引退しました。

この前年に全国大会決勝で1点差で敗れ、その悔しさから「あと1年、あと何日練習できるか」を常に考えて練習に取り組んできました。社会人大会では準決勝で新日鐵釜石に引き分け、抽選の末、決勝戦に進み、優勝しました。そして日本選手権では、早稲田大学を破って栄冠を手にすることができました。この日のために1年間考えてやってきたので、試合後のロッカールームでジャージを脱いだ時、ふっと肩の荷がおり、身体が軽くなった感じがしましたね。やり切ったな、と思いました。振り返れば、何かしようと思うときには必ず「人との出会い」がありました。そのどれもが貴重な出会いで、私は常に運があったなと思います。

関西大学Aリーグ初優勝 指導哲学を貫き悲願を達成

山本 監督として苦勞されたこと、大変だったことは何でしょうか。

坂田 1977年から大阪体育大学で教



壇に立ちながらラグビー部を指導することになりました。選手には日々過酷なほどの猛練習を課しました。強くするためには、それしかない信じ込んでいたのです。しかし、まったく結果が出ない。4年目までは大学選手権に出場することすらできませんでした。転機が訪れたのは5年目です。関西大学Aリーグの試合中に選手が怪我で倒れたのを見て、私は「放り出せ！直ぐに代わりを入れろ！」と叫んだのです。その時、親しくしていた新聞記者が「放り出せとは何事だ！」と激怒したのです。それで、ようやく自分の間違いに気づいたのです。必死で戦っているのは選手であり、痛いのも苦しいのも彼らだと…。選手が主役なのです。その日から選手一人ひとりの心に寄り添い、選手の自主性を重視し、練習メニューの作成も任せました。これをきっかけに、チームは驚くほど強くなっていきましたね。「やらされている」から「やろう！」へと全員の意識が変化しました。私は選手に寄り添い、常にグラウンドで選手の様子を見守るようにしていました。いいプレーは褒め、形を崩している選手にはアドバイスをしました。その成果が結実したのが1985年の関西大学Aリーグ初優勝です。全勝で迎えた最終戦の相手は過去10年間負け知らずで、全国大学選手権でも3連覇を成し遂げていた同志社大学。その試合の直前にも忘れられない出来事がありました。ウォーミングアップの最中にある部員が後輩にその様子を撮影させていたのです。「なぜ写真を撮っているんだ?!」と聞くと、思いがけない言葉が返ってきたのです。「今日、グラウン

ドで死ぬかもしれません。これは形見の写真です」。彼はまさに命がけで戦いに挑もうとしていたのです。私は勝利を確信しましたよ。その確信の通り、同志社を34対8の大差で破り、初優勝を飾りました。悲願を達成した最高の試合でしたね。

山本 IRBラグビー殿堂入りした時の思いを聞かせてください。

坂田 監督として最後のシーズンを迎えた2012年の春でした。第1号はラグビーの考案者とされているウィリアム・ウェッブ・エリス。その後も世界的に名高い方々が選ばれています。私は世界で51番目、日本人初でした。「国際ラグビーボードは、1960年代の世界で最も優れた選手の一人で、おそらく今日にいたるまで日本で最高の選手である坂田好弘氏のラグビー殿堂(IRB Hall of Fame)入りを決めた…」これが選出理由です。最高の名誉であり、深く感動しました。世界が選んでくれたというのが本当に嬉しい。2007

年のフランスワールドカップ開幕式典では「世界のレジェンド」と紹介され、8万人の喝采を浴びました。個人としては身に余る評価をいただきました。これからは日本ラグビーのために少しでも貢献できればと日々思っています。

山本 私は今年ラグビー部のキャプテンになりました。最後にリーダーに必要な資質について教えていただけますか。

坂田 選手はキャプテンの一挙一動を常に見ています。だから、必死で挑み続けている後ろ姿を見せ、その熱意を実感させなければならない。キャプテンは行動で示すことが何よりも大切です。特に勝てない時は何倍もの努力が必要。キャプテンが責任を果たすために必死で努力する姿が試合に出る選手、応援する部員にひろがり、チームの強化につながるのです。また、同志社大学や同志社大学ラグビー部の歴史を知ること重要だと思います。これは学生だけでなく、指導者も。同志社は新島襄先生が創立して以来、脈々と受け継がれてきた気高い伝統と精神を有する大学です。これらを部に関わる全ての人々が認識すれば、ここでラグビーができることに大きな誇りを感じるはずです。新島襄先生は「男子一戦して敗るるも止むなかれ 再戦して止むなかれ 三戦して止むなかれ 刀折れ 矢尽きて止むなかれ 骨砕け 血尽きて止むべきのみ…」という不屈の言葉を残されています。この気迫を胸に刻み、日本一を目指してほしいと願っています。

インタビューを終えて



インタビューー
山本 雄貴 さん

【商学部4年次生】

やまもと・ゆうき 京都府出身。小学校4年生の時に同志社大学で学び、同志社大学ラグビーの大ファンである父親と試合を初観戦。以来、自身もラグビーの世界に魅了される。現在はラグビー部キャプテンとして伝統のチームを率いている。

同志社大学ラグビー部の偉大なOBで、IRBラグビー殿堂入りを果たされた坂田さんとお話しさせていただく機会をいただき、感謝しています。坂田さんが果敢にチャレンジされてきた姿は、日本のラグビーの軌跡そのものだと思います。刻んでこられた足跡の一つ一つが私たち後輩にとって大きな気づきとなりました。新島襄先生の不屈の精神、同志社大学ラグビー部の先輩方がこれまで築き上げた伝統を再認識し、同志社大学ラグビー部の誇りを胸に、リーダーとしてチームをまとめたいと思います。本当にありがとうございました。



My Job,

私と「仕事」

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生

その姿が学生の皆さんの将来の

いわた わたる
岩田 渉さん

[2016年 社会学部社会学科卒業]

一般社団法人 日本ソムリエ協会 執行役員

ソムリエはどこまでも深く果てしのない学びの世界 すべてを注いで挑み続けたい仕事です



2018年、京都にて行われたA.S.I. アジア・オセアニア最優秀ソムリエコンクールで優勝。テイスタングの課題など試験は多岐にわたる。

写真提供：日本ソムリエ協会



2019年3月、ベルギーのアントワープで行われた世界大会セミファイナルの課題。サービススキルの必要性を痛感した。

写真提供：
JEAN BERNARD



サントリーとブランドアンバサダー契約を結び、主に日本ワインの啓蒙活動に励む。ミレニアル世代の方々に、いかに魅力を伝えるかが自身の課題に。

写真提供：サントリーワインインターナショナル



ワインの世界に魅せられたのは、ワーキングホリデーの制度を活用してニュージーランドに滞在した時でした。その前年、2年次の夏休みに東南アジア周遊の旅に出かけ、初めての海外旅行に多くの刺激を受けたのですが、痛感したのが語学力のなさであり、これを鍛えるために海外留学を決意しました。現地の日本食レストランでアルバイトをしながら語学学校に通い、シェアハウスで各国の友人たちとワインを愛飲しているうちに、その興行の深さと多彩さに興味を抱くようになりました。

住んでいたオークランドはワインの学びの地として最高で、名高いワイナリーが点在しており、実際の風土を感じながら、独学で銘柄、ぶどうの品種、原産地の特徴、醸造方法などの基本を学びました。その後、語学力を高め、ワインを本格的に勉強するために、さらに2年間ニュージーランドに滞在。休学4年目にはヨーロッパに赴き、10ヵ国以上のワイナリーを巡りました。ビジターお断りのワイナリーにも、熱意を伝えて何とか訪問にこぎ着けるなど、かけがえのない多彩な経験を各地で積み重ねることができました。

帰国後すぐに受験したソムリエ試験に合格し、2017年に実施された「第8回全日本最優秀ソムリエコンクール」で優勝。初出場、地方からの参加といった点で

も注目されました。続けて、昨年挑んだ「第4回 A.S.I. アジア・オセアニア最優秀ソムリエコンクール 2018 京都大会」でも優勝し、本年開催の「第16回 A.S.I. 世界最優秀ソムリエコンクール バルギー大会」への出場権を獲得しました。結果は11位（準決勝進出）。国内で評価されていた、自分の語学力とコミュニケーション能力を上回る選手が数多く、世界最高レベルの壁を痛感しました。この悔しさを糧に、現在は特にサービス実技（接客）に磨きをかけつつ、3年後のコンクールへの再挑戦を目指しています。若い世代が牽引することによって日本のソムリエの地位を高め、飲食業界の改革にも貢献したい。それが次代への目標です。そのためにも日本で二人目の「ソムリエ世界一」になりたい。

ワインは、人生のすべてを注ぎ込んでも決して極めることはできません。ソムリエという仕事をしていると、まるで旅をしているかのように様々な人や物との出会いがあり、やりがいも尽きません。ふり返れば、卒業するまでに8年の歳月を要しましたが、進むべき道を見出すことができました。失敗を恐れず、挑めるのは大学生の特権です。後輩の皆さんも、自分を賭けることのできる世界を追い求めてください。

MyLife

第81回

を訪ね仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。

キャリア・プランに役立てば幸いです。

ます だ はるか
増田 晴香さん
 [2016年 文化情報学部卒業]
 株式会社ボンズ 制作進行



“好き”が私の原動力。憧れの会社でクオリティの高いアニメ作りを支えています

アニメファンとして以前から憧れていたボンズ。数多くの有名作品を世に送り出してきた、アニメ制作会社です。現在、私はここで制作進行を担当しています。作品が完成するまでのプロセスをスムーズに進行できるように管理しており、担当する話数のスケジュール調整や各工程の管理、原画の回収など、業務内容は多岐に渡ります。例えば、どのアニメーターに、何のシーンの作画を依頼するのかを考えるのも大事な仕事の一つ。制作進行次第で、作品のクオリティが大きく左右されるため、自分もクリエイターとしてのプライドを常に持って仕事と向き合っています。

これまで、アニメ映画シリーズ「交響詩篇エウレカセブン ハイエボリューション」や、テレビアニメ「文豪ストレイドッグス」、「モブサイコ100」などの人気作品に携わってきました。どの作品にも思い入れがあり、完成した瞬間は何ものにも代えがたい喜びや達成感を味わうことができます。特に、エウレカセブンシリーズの2部作である「ANEMONE」では、初めてプリプロから完成まで関わったため、クリエイターとしての第一歩を踏み出せたと実感することができました。

この業界を明確に意識したのは、大学生の時。中学生の頃から大好きだったアニメや漫画に携わる仕事がしたいと考え、行き着いた先がアニメ制作会社でした。就職

活動では、情報収集のために、業界関係者のSNSアカウントを探してDMで質問をしたり、関係者同士の交流会に参加したりと、自ら人脈を開拓することで業界研究を深めていきました。

好きなことを仕事にしようと思った際、周囲の人たちから「嫌いになったとき、すごく辛くなるよ」と散々反対されましたが、私は全く気にしませんでした。その理由は、同志社大学での日々にあります。文化情報学部では漫画の研究がしたいと、認知科学の中でも視覚表現が専門の下嶋篤先生のゼミに所属し、サークルではお祭りが好きだからと、同志社クローバー祭の実行委員会に入り、統括リーダーを務めました。学業やサークルでも“好き”を原動力に全力で取り組むことで、何度壁にぶつかっても乗り越えることができた、その経験は、仕事にも通ずるものだったからです。学業で得た知識や考え方はもちろん、同志社クローバー祭で学んだチームワークの大切さは、現在の仕事にも十分に活かされています。

仕事では、“好き”だけでは乗り越えられない壁もありますが、辛い時にもアニメが好きだという気持ちが0.001%でも残っていれば、その気持ちが私を立ち直らせ続けてくれます。学生の皆さんも、自分の“好き”という気持ちを大切に、思いっきり突き進んでいってください。

One day on the job



13:00 出勤

14:00
各作業への声かけや状況確認



16:00
打ち合わせ



18:00
原画の回収

20:00
カット棚の整理

22:00 退勤



OFF TIME
休日は映画鑑賞、セルフネイルが趣味です

日本の貴重な伝統文化である仕事唄を 50年以上の歳月をかけて収集 その集大成をデジタルアーカイブ化して世界に発信するために 80歳で本学大学院に入学して日々研究に打ち込んでいる

同志社女子中学校に入学して間もない頃の礼拝で、同志社初期の用務員を新島襄先生が「五平さん」と呼ばれた話を聞き、人ひとりを大切にしている新島先生の思いに感銘を受けたという阪田美枝さん。大学卒業後京都ホテル(社長秘書等)を経て、同志社女子大学の職員として多忙な日々を送る。ゼミの嶋田啓一郎先生が「専門以外のことを毎日一時間勉強しなさい」との教えを思い出し、仕事唄の収集に没頭する。全国各地で受け継がれてきた「紙漉き唄」や「酒造り唄」である。作業唄とも称される仕事の成功と安全を願い、神に捧げる唄であった。「大学の図書館司書だった頃です。研究発表で習ってきた紙漉きの実演も行うことになりました。参考資料も展示したいと思って同志社大学の書庫で探していた時、長唄『加美の里』という唄が出てきたのです。昭和15年に越前地方で奉納されたものでした。一人だけ唄っておられた方が見つかったのですが、もう憶えていないというお返事でした。歌詞はあっても、曲が分からない。このままでは日本の伝統文化が忘れ去られてしまうという焦燥感にかられて調査を始めました」。母親が長唄の名取であり、譜面おこしにはその手ほどきを受けていたことも役立ったとふり返る。北海道から沖縄までを視野に入れた収集の旅はすでに半世紀を超える。これらの成果は書籍として結実している。1992年に出版した『日本の紙漉き唄』(竹尾研究所:大蔵省印刷局朝陽会より第1回受賞)、1999年に刊行した『定本日本の酒造り唄』(チクマ秀版社:日本酒造組合中央会日本酒大賞受賞)などである。「神様の導きか、ふっと思った時には夏休みや冬休みなどを利用して、4WDにビデオやカメラなどを積み込んで

で全国各地を一人で巡りました。山深い地で豪雪に行く手を阻まれ、恐ろしい思いをしたこともあります。でも、いつも取材先では大歓迎を受け、貴重な映像と音声を収録することができました。本当にチャレンジして良かったと思っています」。

今年、阪田さんは同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(前期)に入学した。80歳で大学院での研究を志す契機になったのは、世界的に著名なジャズピアニスト山下洋輔氏の激賞だった。「2年ほど前のことです。友人を通じて山下さんのお手元に届き、『仕事唄は日本の文化の原点。極めて貴重な研究である』と背中を強く押しいただいたのです。心から感激しました」。その直後に体調不良に陥った阪田さんは、がんと診断され、余命数年の宣告を受ける。昨年の6月のことだった。だが、この過酷な状況にも怯むことなく、治療を続けながら猛勉強し、合格を果たした。

5月28日から2日間、市内で山下洋輔ジャズピアノコラボ「造漉創(つくる)」が開催された。その惹句は「阪田美枝の唄への情熱を受けて山下洋輔の魂に火が付いた!」。第1部では阪田さんが熱い心を注いできた「紙漉き唄」や「酒造り唄」への思いを語り尽くし、第2部で日本文化の原風景と呼応する山下洋輔氏の演奏が披露された。「連日、満席でした。お客様から『素晴らしくて、鳥肌が立った!』というお言葉もいただきました。中学から大学まで、職員さらには理事も務めさせて頂き同志社に育てられたご恩と、神様とたくさんの方々とのご縁に恵まれたありがたい人生です」。現在、阪田さんは50年余に及ぶ研究の集大成を国内外に発信するために、寸暇を惜しんでデジタルアーカイブ化を進めている。



さかた よしえ
阪田 美枝さん
[大学院総合政策科学研究科
博士課程(前期)1年次生]